

シム ジョンウツ

沈 政郁

経済学部・准教授
博士(経済)／一橋大学

主な研究業績

● Mehrotra, V., Morck, R., Shim, J.W., Wiwattanakantang Y., 2013. Adoptive Expectations: Rising Sons in Japanese Family Firms, *Journal of Financial Economics* 108, 840-854

● Mehrotra, V., Morck, R., Shim, J.W., Wiwattanakantang Y., 2011. Must Love Kill the Family Firms? Some Exploratory Evidence, *Entrepreneurship Theory and Practice* 35 (6), 1121-1148

● Shim, J.W., Okamuro, H., 2011. Does Ownership Matter in Mergers? A Comparative Study of the Causes and Consequences of Mergers by Family and Non-family firms, *Journal of Banking & Finance* 35, 193-203

● Mehrotra, V., Morck, R., Shim, J.W., Wiwattanakantang Y., 2011. Adoptive Expectations: Rising Sons in Japanese Family Firms, NBER Working Paper Series 16874

● Mehrotra, V., Morck, R., Shim, J.W., Wiwattanakantang Y., 2010. Must Love Kill the Family Firms? NBER Working Paper Series 16340

研究テーマ

日本の家族企業の実証分析

概要

所有と経営の分離は長い間、一つの事実として捉えられてきた。しかし、2000年を境にしてこの共通認識に疑問を抱く研究が現れ始め、その後の一連の研究によって米国と英国を除くと、世界的には家族企業が支配的な企業形態であることが明らかになった。

家族企業研究の難点はデータの収集である。筆者は博士論文を準備する際に、日本のすべての上場企業を対象にして1960年から2004年までの所有構造・役員構造・家族構造の三つのデータを構築した。この長期間のデータは日本の企業を研究する際にとってもユニークで貴重なデータであり、高い評価を受けている。

このように構築されたデータを用いて（日本の婿養子慣習の経済的機能、同族企業と非同族企業の成長戦略の比較、血縁主義の弊害、家族企業の専門経営化の効果などの）研究を行ってきた。

売り家と唐様で書く三代目

有能な婿養子に後を継がせよ

老舗大国ニッポン



応用分野

所有と経営の分離の元で行われてきた既存研究に対して、所有と経営の一致（家族企業）の元ではどのように既存の発見が見直されるかという観点から、色々な分野で応用できると期待する。

共同研究へのニーズ

家族企業の研究が注目を集めているといっても、まだ始まったばかりであり、明らかにされていない部分も多い。今まで、自分は企業金融(Corporate finance)を中心に研究してきたが、Management・会計学・Entrepreneurshipとの共同作業は望ましい今後の方向だと思われる。